

地域循環共生圏づくりに必要とされている中間支援とは？



地域循環共生圏づくりにおける中間支援で大切なことをテーマにトークセッションを行いました

2025年12月、中部環境パートナーシップオフィス（EPO中部）は「地域循環共生圏づくり支援セミナー2025」をオンライン開催しました。昨年度の同セミナー2024では「地域循環共生圏になっている」とはどういうことか」がテーマでしたが、今回は「中間支援」に焦点をあて、地域課

題解決や地域資源活用によるローカルSDGsを実践する地域、あるいはそれに取り組む主体への中間支援の必要性・重要性をテーマに開催しました。中間支援はどのような役割を担うのか、何を大切にすべきかなどについて、トークセッションで4人のパネリストにお話ししていただきました。

地域循環共生圏づくり支援セミナー2025について

地域循環共生圏づくり支援セミナー2025

ローカルSDGsの実践とその中間支援 ～地域循環共生圏づくりで必要なこと・大切なこと～

- ・ライブ配信（録画）日：2025年12月5日
- ・セミナー録画をEPO中部ウェブサイトで公開中 →自由にご視聴できます。
<https://www.epo-chubu.jp/epo-news/34087.html>



■ プログラム・ご登壇者

1. 【ごあいさつ】環境省の地域循環共生圏事業と中間支援
環境省中部地方環境事務所
2. 【基調講演】地域循環共生圏づくりにおける中間支援とは
島岡 未来子 氏(早稲田大学リサーチ・イノベーション・センター 教授/
神奈川県立保健福祉大学ヘルスイノベーション研究科 教授)
3. 【取組紹介】地域の財産“情報”を活かす中間支援の取組
吉田 喜美夫 氏(認定特定非営利活動法人長野県NPOセンター コーディネーター)
4. 【トークセッション】地域循環共生圏づくりに必要とされている中間支援とは
パネリスト：
島岡 未来子 氏(早稲田大学リサーチ・イノベーション・センター 教授/
神奈川県立保健福祉大学ヘルスイノベーション研究科 教授)
吉田 喜美夫 氏(認定特定非営利活動法人長野県NPOセンター コーディネーター)
堺 勇人 氏(一般社団法人環境市民プラットフォームとやま 常務理事/事務局長)
水上 聡子 氏(アルマス・バイオコスモス研究所 代表)
コーディネーター：
原 理史 (EPO中部)

次ページ以降に【トークセッション】のテキスト記事を掲載しています

島岡氏の基調講演と、吉田氏による取組紹介を含めたセミナー全体を録画した動画や、環境省中部地方環境事務所による地域循環共生圏と中間支援の概説資料、ここに掲載したトークセッションのスライド資料、そして前回・2024年度フォーラムの動画・資料等をEPO中部ウェブサイトで公開しています。そちらもぜひご覧ください。

トークセッション 「地域循環共生圏づくりが必要とされている中間支援とは」

地域循環共生圏づくりに必要とされている中間支援とは

原理史（以下、原） 皆さん、こんにちは。今日は、「地域循環共生圏づくりに必要とされている中間支援とは」をテーマに議論をしていきたいと思えます。

「地域循環共生圏」は、第五次環境基本計画で示された、日本が目指すべき自立・分散型の持続可能な社会の姿です。そして、地域資源を活用しながら環境、社会、経済を統合的に向上させていく「ローカルSDGs事業」によってこれを支えるとされています。

国際統合報告評議会という国際組織は、持続可能な社会を構築するためには、6つの資本を使って事業を行い、その事業のアウトプット、アウトカムを6つの資本の増加・蓄積につなげることが重要であると言っています。EPO中部では、これら6つの資本の関係性について、SDGsウェディングケーキモデルを参考に、環境を一番下にしてその上に社会、経済がある位置づけに整理したうえで、6つの資本に着目した《地域循環共生圏づくりの取組事前チェックリスト》を作成しました（※前回・2024年度フォーラムにて紹介）。

また、本フォーラムの基調講演で講師の島岡先生がお話しされたように、地域循環共生圏づくりでは、チェンジ・エージェント機能を発揮し、協働取組を促進する中間支援も重要とされています。そこでEPO中部では、本日のパネリストである堺氏、水上氏にも検討委員に加わっていただき、活動評価検討ワーキングを立ち上げ、前述の《取組事前チェックリスト》に続き、《中間支援組織の機能評価リスト》も作成しているところです。

“地域循環共生圏”が産み出し“地域循環共生圏”を支える「ローカルSDGs事業」

○自立した地域をつくるため生み出す「地域資源を持続的に活用して環境・経済・社会を統合的に向上していく事業」で地域課題を解決し続ける

環境省の【ローカルSDGs事業の条件】

- ① 地域資源(人・モノ・金・情報)を持続可能な形で活用している
- ② 地域の環境・社会・経済課題の同時解決をする
- ③ 採算性が考慮され、一定の継続性が見込まれる

※ローカルSDGs事業は営利事業だけでなく、行政機関の政策に基づく各種施策、企業のCSR活動、ボランティア活動など様々な形態の取組を含みます。=「**ローカルSDGs活動**」(地域循環共生圏づくりの手引き 2024年4月環境省地域循環共生圏推進室)

The diagram shows three overlapping circles representing '環境分野' (Environmental Sector), '社会分野' (Social Sector), and '経済分野' (Economic Sector). In the center, where they overlap, is a green circle labeled 'ローカルSDGs活動' (Local SDG Activities).

資本の積み木

The diagram shows six types of capital stacked like blocks: '財務資本' (Financial Capital), '生産・製造資本' (Production/Manufacturing Capital), '社会・関係資本' (Social/Relationship Capital), '知的資本' (Human Capital), '人的資本' (Human Capital), and '自然資本' (Natural Capital). To the right, three arrows indicate interactions between '経済分野' (Economic Sector), '社会分野' (Social Sector), and '環境分野' (Environmental Sector).

● 崩れない資本のバランスが持続可能性にとって重要

This diagram shows the same six capital blocks, with some blocks being tilted or falling away, illustrating the concept of a balanced and stable structure for sustainability.

地域循環共生圏取組チェック (評価)

● その取組は地域循環共生圏に貢献する資本増加に繋がっているのか、事前チェックリスト(案)

六つの資本	評価項目の例
1 財務資本 (地域循環 財務資本)：地域内での経済循環になっているか	● 地域にお金を落とすようになっているか ● 地域への投資になっているか ● 地産地消を目指しているか
2 製造資本 (地域循環 生産・製造資本)：地域資源・エネルギーが持続可能な形で使えるようになっているか	● 資源循環を目指しているか ● 再生可能エネルギーを稼働させているか ● 防災・減災に役立っているか
3 知的資本 (地域共生 知的資本)：地域の文化、知恵などが生かされているのか、水準の高い知見が用いられているか	● 様々な場面で教育を進めようとしているか ● 住民自治を取り入れようとしているか ● 伝統的文化・知恵を活用しようとしているか ● 高等知見の導入をしようとしているか ● ICT活用を進めようとしているか
4 人的資本 (地域共生 人的資本)：地域の多様な人々が共生できているか	● 主体的・意欲的な人がいるか ● 愛着・誇り・責任感のある人がいるか ● 包摂社会を目指しているか
5 社会関係資本 (地域共生 社会関係資本)：地域の繋がりが、コミュニティづくりにつながっているか	● 対話型の議論・交流を作ろうとしているか ● 相互信頼を醸成しようとしているか ● 公正さに働きかけているか ● 共助を取り入れようとしているか
6 自然資本 (地域循環共生 自然資本)：地域の自然・生物多様性が守られているか	● 生物多様性を守ろうとしているか ● グリーンインフラ・景観の向上に配慮しているか ● 脱炭素を進めようとしているか ● 自然資源の保全活用を進めようとしているか ● 農地・漁業を持続可能な形で使おうとしているか

中間支援と協働取組：地域循環共生圏

● 地域循環共生圏における中間支援
協働取組を通じて社会、環境、経済に貢献(関わる資本を蓄積させる)

The diagram shows the same three sectors (環境分野, 社会分野, 経済分野) with 'ローカルSDGs活動' in the center. A blue circle labeled '貢献する(資本蓄積)' (Contributing (Capital Accumulation)) is also in the center. A red box labeled '中間支援' (Intermediate Support) has an arrow pointing to the '社会分野' (Social Sector) with the text 'チェンジエージェント機能を発揮した協働取組の促進' (Promotion of collaborative activities that发挥 change agent functions).

※上記スライド資料はEPO中部ウェブサイトでご覧いただけます。

地域循環共生圏づくり支援セミナー2025
 トークセッション
 「地域循環共生圏づくりに必要とされている中間支援とは」

中間支援では、協働取組の開始時における「見立て」と、運営制度の設計段階における「座組み」、活動に対する「打ち手」としての関与をしっかりと行う必要があります。そのため、《中間支援組織の機能評価リスト》では、インプット評価、プロセスに対するスループット評価、アウトカム評価を行うとした整理を行っています。

また、中間支援主体は、「打ち手」において、チェンジ・エージェントとしての4つの機能（変革促進、プロセス支援、資源連結、問題解決提示）を果たすことが求められます。そのために、喚起、関係構築、定義づけ・診断、資源調査、問題解決・応用などを行うことになると考えられています。《機能評価リスト》は「見立て」「打ち手」「座組み」に関する評価項目となっていますが、特に中間支援の場合は、「打ち手」への評価が中心になるであろうと捉えています。

地域循環共生圏づくりにおける中間支援の位置づけ

原 ここからはディスカッショントークに入ります。中間支援に求められることについてコメントいただけますか。

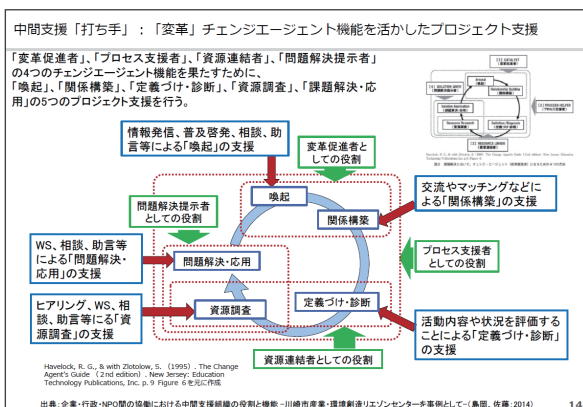
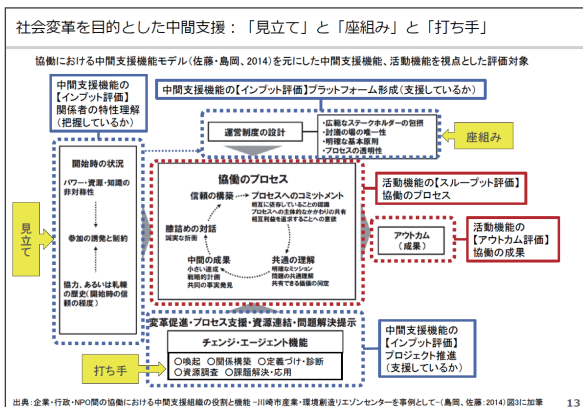
島岡未来子（以下、島岡） 協働がうまくいかないところこそ中間支援の力の発揮しどころと捉えるべきです。一歩引いてみることでできる人こそが問題に気づくことができ、利害関係のない人こそが信頼を得やすいと言えます。

吉田喜美夫（以下、吉田） 中間支援というよそ者が間に入ることで、発言しづらい立場にある若者や女性の思いを代弁したり、共通の理解が不足している部分を上手くつないだりすることができます。

水上聡子（以下、水上） 有識者などが正論だけを押し付けても問題解決につながりません。当事者が俯瞰的に問題を捉え、話し合いのなかで自然に答えが導きだされるようなファシリテーションが中間支援では大切だと考えています。

堺勇人（以下、堺） 中間支援は組織の外側のポジションにあることが基本ですが、信頼が大切なので時に中に入ることも必要です。

水上 みんなが萎縮することなく自由に発言できるよう、最初に話し合いのルールを決めたり、議論が横道に逸れていかないようにゴールをみんなで確認したりしておくとういと思います。中間支援者にはファシリテーターとしての毅然とした態度が求められます。



※上記スライド資料はEPO中部ウェブサイトでご覧いただけます。

地域循環共生圏づくり支援セミナー2025
トークセッション
「地域循環共生圏づくりに必要とされている中間支援とは」

吉田 さまざまな意見が出されるなかで、それらの共通する事項を整理し、たどりつくべきゴールへと導いていくハンドリングが中間支援者には求められます。

堺 やはり、変革を起こそうとする心意気や、それをもつことのできる客観性やバランス感覚が求められるのではないのでしょうか。

島岡 中間支援者は組織の外というよりも俯瞰する立場から関与できる存在だと言えます。ですから、活動主体自らが中間支援の役割を担うこともあると思います。

水上 確かに、当事者として共感できるうえに俯瞰した視点も持てる人がいることで、うまくいったケースが多いように感じます。

吉田 内側の情報だけでは議論が狭まってしまう。中間支援には俯瞰しながら、さらに外の情報を取り入れる働きも求められます。

原 中間支援機能は、内外といった所属や立場・立ち位置に関係なく、俯瞰的な視点でチェンジ・エージェント機能を発揮できることが重要であるということですね。

中間支援として何を行うのか

原 次に、中間支援は何を行うものなのかという話をしていきたいと思います。皆さん、中間支援として何を行っていますか。

吉田 協働がうまくいかない背景にはお互いの思いの違い、考えの違いがあります。そのため、お互いの理解を深めてもらえるよう、

根底にあるそれぞれの思いは、中間支援の役割としてできるだけ言語化するように努めています。また、解決すべき課題があっても、楽しくなければ活動は続かないので、みんなで楽しんで取り組めるような動機づくりにも工夫を行うようにしています。

水上 動機づけとして、インセンティブを明確に示すことが重要だと思っています。課題を示すだけでは皆さんついてきてくれません。誰に、どんなウェルビーイングをもたらすことができるのかということまで、みんなが考えられるようなプログラムをつくり、内発性を引き出すことも大切です。中間支援に求められるチェンジ・エージェント機能のなかでも、特に喚起が重要であり、また難しい部分でもあると感じています。

吉田 芋井地区住民自治協議会（長野県長野市）が実施している「草刈りバスターズ」では、地域の課題とそれに対する地域の皆さんの思いを汲み取って、みんなで一緒に楽しくやるにはどうしたらいいかを考えていったことが喚起につながりました。しかし、多くの場合、アイデアが出て誰がやるのか、お金はどうするのかという話になって議論が止まってしまう。一人でも手を挙げる人がいると続いて賛同する人も出てきますから、楽しくあることは、一歩進めるための原動力にもなると考えています。

原 潜在的なニーズの掘り起こしや新しい視点の導入により、当事者を前向きにさせることも中間支援の大事な役割なのですね。

堺 手を挙げやすい環境を作ることも中間支援の役割だと思います。取組を継続させるためには、当事者が能動的になれない理由を掘り下げてそれを解消させることも重要です。

地域循環共生圏づくり支援セミナー2025
トークセッション
「地域循環共生圏づくりに必要とされている中間支援とは」

吉田 行き詰まったら、楽しい、美味しい、嬉しいと感じられることをするといいですね。そうすると、自ずと新しいアイデアも出てきます。人が集まる機会を作ることで一歩進みます。

堺 義務感、責任感だけでは楽しくないので続きませんし、いいアイデアも出てこないのではないのでしょうか。

水上 地域防災の取組も実際にやってみると必要性とともに、楽しさややり甲斐を感じてもらえるので、そこにつなげるまでのプロセスをいかに構築するかが重要だと思っています。自助、共助でやらなくてはいけないことがあることを知ってもらい、楽しんでそれに取り組んでもらえるよう、中間支援主体には細かな配慮をしながら伴走していくことが求められます。

堺 中間支援主体などは俯瞰的な視点からこそ、地域の課題を楽しいことにもつなげるという発想が生まれやすいのではないのでしょうか。

吉田 中間支援は、非日常というよりもチェンジ・エージェント機能の変革促進として、楽しい、面白い、美味しいを用意することが求められます。その人が自覚していなかったことを自覚させるような環境を作ったり、今までなかったこととつないだりすることによって変化が起きます。中間支援の役割は人的資本や知的資本、社会・関係資本を太くすることであるというお話もありましたが、自身も、そのためにどのように進めるか、変革するかというスタンスで取り組んでいます。

水上 草刈りは農村では極めて日常のことであり、決して楽しみにはなりませんが、芋井

地区住民自治協議会のように、農村が持つ大きな可能性に対する誇りやプライドを育てていくことが重要だと思っています。そのために、地方と都会のアンバランスな構造を俯瞰して理解できるように示していくことも中間支援の役割だと考えています。

吉田 田舎の人にとって草刈りは義務であり面白いことにはなりませんが、人に教えるのであれば楽しいことになります。人に喜んでもらったり、人の役に立てたりする出番を作り、義務を楽しさに転換することは中間支援主体の役割です。そうすることで地域に新しい元気が生まれます。

島岡 皆さんは中間支援主体として、変えていくというよりも、地域がもともと持っているものをうまく引き出しているのだと感じました。引き出してもらえることは地域にとっても嬉しいことであり、頑張ろうという気持ちにもつながるのではないのでしょうか。

中間支援主体への期待

原 中間支援の「打ち手」のなかでも一番難しいと思われる喚起についてのお話をいろいろとうかがうことができました。最後に、中間支援主体はどのような存在となるべきでしょうか。

吉田 常にアンテナを立てておき、被支援団体・地域の外にいながらも、必要とされる情報をきちんと把握するよう努めています。また、その前提として、地域の情報が集まる仕組みづくりや、我々を認知してもらうための取組も必要になります。

堺 民設の中間支援組織は社会的認知が薄く、資金の確保が難しく、なかなか思うように取り組めないという課題もあります。

地域循環共生圏づくり支援セミナー2025
トークセッション
「地域循環共生圏づくりに必要とされている中間支援とは」

原 本日は「地域循環共生圏づくりに必要とされている中間支援とは」をテーマに議論をしてきましたが、中間支援とは、地域が有する潜在的なニーズや内発性を引き出し、みんなで目標を共有しながら事業を前に進めていくためのプロセス支援であり、それが今、地域に特に必要とされているのだと感じました。最後に、中部地方環境事務所の縄野さんに今日の感想をお願いしたいと思います。

中部地方環境事務所 皆さんは中間支援主体として、俯瞰的な視点を持ちながら地域と向き合い、地域から信頼されているからこそ発言もできる状況を努力してつくっておられるのではないかと思います。また、楽しいというキーワードが出てきましたが、娯楽ではないことにも楽しさを見いだしてもらうことが重要であり、またそこに苦労をされているのではないかと感じました。さらに、引き出すというキーワードも出てきましたが、引き出してもらうことによって地域側も前向きな気持ちになり、次の取組、次のステップへとつながっていくのでしょうか。これらのキーワードを、今後、地域循環共生圏づくりの支援に取り組むに際して、心にとめておきたいと思いました。

原 地域循環共生圏づくりに必要とされる中間支援について、事例や現場の感覚も含め、いろいろな興味深いお話をうかがい、議論を深めることができました。パネリストの皆さんのご協力に感謝いたします。ありがとうございました。



ローカルSDGsを実践する活動主体と、地域や主体の様々な可能性を引き出し、俯瞰的かつ幅広い視点から地域循環共生圏づくりを伴走する中間支援を、EPO中部は支援・応援しています。トークセッションの中でご紹介した《取組事前チェックリスト》や《中間支援組織の機能評価リスト》にご関心がありましたら、ぜひEPO中部へご連絡ください！



中部環境パートナーシップオフィス（EPO中部）
〒460-0003 名古屋市中区錦2-4-3 錦パークビル4F
TEL: 052-218-8605 / FAX: 052-218-8606
<http://www.epo-chubu.jp>

発行：2026年3月